

## 道徳的実践力の育成をめざす道徳の授業

～ 自作資料の開発を通して～

那覇市立真嘉比小学校教諭 知念 澄男

### テーマ設定の理由

近年、急速な社会の変化等に伴い、基本的なしつけや倫理観、社会生活上のルールの習得等子どもたちの道徳性の育成にかかわる教育機能の低下が指摘されている。

このような背景のもと、学校教育においては、豊かな心や人間性の育成が強調され、「心の教育」としての道徳教育の充実が求められている。平成10年度中央教育審議会答申でも幼児期からの一貫した「心の教育」の重要性が提言された。学習指導要領においても、道徳教育の目標が総則に掲げられるなど、その重要性がますます強調されている。本県も「沖縄県教育長期計画」において「生きる力」を育み、豊かな人間性を培う「心の教育」の充実を図ることを提言している。

道徳の時間は学校教育全体で行う道徳教育を補充、深化、統合する要の場である。また、自己を見つめ、道徳的価値を発達段階に即して内面的に自覚し、道徳的実践力を育成することを目標としている。道徳的実践力とは、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質である。

そのような観点から、私自身のこれまでの道徳の授業を振り返ってみると、子どもたちの道徳的実践力が高まる授業だったとは言い難い。その要因として、道徳的価値を深めるための適切な発問の工夫や資料の活用が十分でなかった。そのために、道徳的価値の自覚を図る手だてが適切でなく、価値の内面化が図れず、子ども自身が自己の問題として価値を追求するような授業展開ではなかったことがあげられる。また、児童の実態にあった効果的な資料の活用が適切でなかったこともあげられる。私のこれまでの実践から、心に響く道徳の時間の創造には、体験活動を生かした授業や、教師自身も児童も心を揺さぶられるような資料との出会いが必要であると痛感している。

そこで、本研究では、児童の心に響く道徳の時間を創造する手だてとして、身近な郷土の人物を取り上げ、読み物資料として教材化しようと考えた。郷土資料を教材化することは、児童にとって、親近感が湧き、めざす道徳的価値に対して共感しやすく、より主体的に受け止めることができるだろうと考える。

また、資料活用の工夫や発問の工夫をした授業を展開することによって、児童一人一人に自分自身を深く見つめさせ、道徳的価値の自覚を図る授業を工夫していきたいと考える。そのことによって道徳的実践力が育つと考え本テーマを設定した。

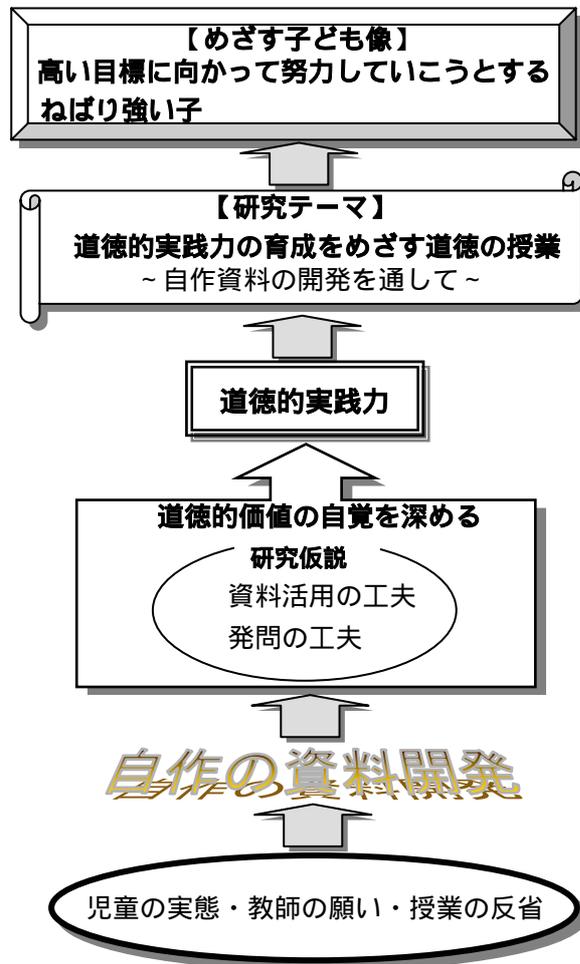
### 研究目標

自作資料を開発し、その資料を活用した授業づくりを行うことによって、道徳的実践力を育む授業のあり方を研究する。

## 研究仮説

自作の資料を開発し、資料活用や発問を工夫することによって、道徳的価値の自覚が深まり、道徳的実践力が育つであろう。

## 研究構想図



## 研究内容

### 1 道徳的実践力の育成

道徳教育の目標は、学校の教育活動全体を通じて、道徳性を養うことであり、道徳の時間の目標は、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育てることである。

小学校学習指導要領解説道徳編において「道徳的実践力とは、人間としてよりよく生きていく力であり、一人一人の児童が道徳的価値を自分の内面から自覚し、将来出会うであろう様々な場面、状況においても、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し実践することができるような内面的資質を意味している。」と述べられている。それは、主として、善を行うことを喜び、悪を憎む感情である道徳的心情、それぞれの場面において善悪を判断する能力である道徳的判断力、価値ある行動を行おうとする傾向性である道徳的実践意欲・態度を包括するといえる。

道徳的実践力を育成するには、道徳の授業では、子ども達が、現在もっている道徳の見方や考え方、感じ方を望ましい方向へ高め、道徳的価値について内面的自覚を育てることが大切であるとする。そのためには、児童の実態に合った資料を選択し、児童の考え方に焦点を合わせた発問を構成し、一人一人の道徳性を高めることが重要であるとする。

## 2 自作資料の開発について

### (1) 自作資料の具備すべき要件

道徳の時間における資料は、子どもが自分を見つめる鏡となるものである。本研究では地域の素材を発掘し、自作資料として教材化しようとした。自作資料は、子ども達にとって親近感をもち、興味・関心・要求度も高くなる。また、学習が終わった後でも、おりにふれ、見聞きする機会が多く、そのたびに学習内容を思い出し、新たに自分の生き方を見つめ、主体的に学習することができる。とりわけ、一人一人の子どもに夢や希望を育てるような生き方をした郷土の人物資料は児童の感動も大きく、人間としてよりよい生き方への糧となり、道徳的実践力を高めることができると考える。

自作資料の開発に当たっては、以下のような要件を踏まえる必要がある。

取り上げる人物は、原則として生存者を除く。

政治的、宗教的な中立性を確保する。

特定の個人等への営利にかかわるものを避ける。

発達段階に応じて、適切な用字、用語等に配慮する。

著作権上の配慮を十分に行う。

史実に基づき、時代の考証等に十分耐えられるよう配慮する。

教育上望ましくない内容、表現は避ける。

方言は使用してもよいが、その際、かっこ書きで標準語を併記する。

地名、人名等で教育用の常用漢字以外のものを用いる場合は、ふりがなをつける。

### (2) 資料開発の一般的な手順

資料開発の一般的な手順として以下のことに留意する。

指導のねらいを設定する。

道徳的心情、道徳的判断力、道徳的实践意欲や態度のうち、どのような側面をねらおうとするのか、ねらいとしての道徳的価値を明確にする。

素材を発掘する。

子どもたちの作品、教師の体験や見聞、地域の出来事や郷土のこと、書物や新聞記事などから素材を発掘する。

素材となる事例を道徳の資料として構成する。

資料の内容のあらすじ、中心となる場面や話題の想定をする。

多様な感じ方や考え方が引き出せる資料にする。

指導過程とのかかわり、基本的な発問とのかかわり等を吟味する。

文章表現を工夫する。

人物の心情描写、情景描写にリアリティをもたせ、表現の難易度や難易度や分量などを検討する。

資料としての仕上げをする。

授業での検証、校内研修会などを通して検討する。

(3) 読み物資料 - 「全盲<sup>ぜんもう</sup>のテノール歌手 新垣<sup>あらがき</sup> 勉<sup>つとむ</sup>」(自作)の視点  
素材の発掘について

地域性のある教材作りは、まず、地域に散在している素材を集めることから始まる。素材の対象を考える場合、「郷土資料を取り上げることによって、資料の内容を共感をもって学ばせ、児童の道徳性を養い、更に郷土に対する理解と愛着を培う」という郷土資料開発の趣旨を踏まえる必要がある。本研究では郷土を正面から見つめることの大切さを痛感し、素材の発掘を試みる。人が人として生まれ育った郷土に愛着をもつ心はこれからの国際社会において培っていくことが必要であると考え。

「全盲のテノール歌手 新垣 勉」(自作)の視点

新垣勉は、目の不自由さにもくじけず、人間としての弱さや強さをもち合わせていてしかも今、テレビや新聞などのマスメディアを中心に、取り上げられていることもあり子ども達もよく知っていると思われる。自作資料作成の留意点に「取り上げる人物は原則として生存者を除く」とある。しかしながら、資料は教師自身が感銘を深くした資料のほうが子ども達により共感が深まり、ねらいに迫ることができることから、新垣勉の資料化を試みた。また、新垣勉がクローズアップされているタイムリーなこの時期に教材化し、残しておくことは価値あるものだと考える。

目標に向かって努力に努力を重ねていく姿は、現代っ子に欠けている点の一つであると考えられる。その点を目が不自由であることにもくじけず、新垣勉の乗り越えていく姿は身近な人物だけに、深い感動を与えるものであり、不撓不屈について考えるには適切な資料になると考える。

資料収集の方法について

新垣勉に関係する資料については多方面から入手し、全体像を把握する。その方法として、インターネットによる情報収集を行ったり、彼の母校である県立盲学校や卒業した各大学の協力を得たりする。また、事実確認を行うために、彼を育てた牧師に会い資料作成に必要な資料や情報を取り寄せる。更に、彼との対談を載せた新聞・雑誌などの資料等を入手するようにするように努める。

文章構成の工夫について

本自作資料は不撓不屈を意図して作成するので、以下のような構成にする。

**起**・生い立ちについて記述する。

- ・新垣勉がいじめや祖母の死によって天涯孤独になり、自暴自棄になる場面。
- ・人生の転機となった牧師との出会い。

**承**・大学進学を決意した新垣勉の姿を描く。

**転**・音楽を本格的にめざし、夢にむかって努力する姿を描く。

**結**・夢を達成し、あらゆる分野で活躍している新垣勉の姿を表現する。

文章表現の工夫について

本資料は小学校高学年の資料としての活用を意図し、以下のことに留意して作成する。

○不撓不屈の内容に沿った文章表現をするために、起・承・転・結の場面ごとに、感動するような文章表現を工夫する。

○漢字表記については、小学校学習指導要領「国語」別表にある学年別漢字配当表に準ずる。

- 挿絵の挿入（写真3枚）をし，読みたいという意欲を湧かせる工夫をする。
- 固有名詞（人名，地名等）の該当学年までに履修しない漢字には，ルビをふる。（例：武蔵野音楽大学 等々。）
- 難語句には注釈を入れる。（例：天蓋孤独 = この世に身寄りがない一人もいないこと 等々。）
- 会話を多く用い，人物の心情描写や，情景描写にリアリティをもたせる。

### 3 資料活用の工夫

#### (1) 資料の活用類型

展開前段で中心資料を扱う際，資料のもつ特質に着目して，それを最大限に有効活用しようとする考えが資料の活用類型である。そのため，同じ資料でも活用の仕方などで展開が変わる。このような活用の類型化を青木孝頼氏は以下のように分類し解説している。

##### 共感資料として活用する類型

この類型は，資料の中の主人公の考え方，感じ方に児童一人一人を共感させることによって，現在の自分の価値観に気付かせ自覚を促す意図で資料を活用しようとするものである。

##### 批判資料として活用する類型

この類型は，資料中の主人公たちの行為や考え方を児童に批判させ，学級の中で様々な批判を出し合って話し合わせることを通して道徳的な考え方，感じ方を深めさせようとする意図で資料を活用しようとするものである。

##### 範例資料として活用する類型

この類型は，資料の内容としての主人公などが行った道徳的行為を，児童に一つの範例として受け取らせようとする意図で資料を活用するのである。資料によっては，好ましくない行為の内容もあるが，その場合でも，児童に望ましくない行為の例として受け取らせようとする意図するものである。

##### 感動資料として活用する類型

この類型は，資料が児童に深い感銘を与えるものである場合に，上述の三つの類型による活用よりも，児童の感動を特に重視しながらねらいとする価値の把握を意図するものである。

#### (2) 資料活用の工夫

本研究では自作の資料を中心資料として活用する。本資料では，主人公の気持ちに共感させることを意図して資料中の主人公の考えや感じ方を推測させ，児童の異なる価値観を出させ，個々の価値観の自覚や深化を図るため共感的活用をする。

道徳の時間では，児童を資料中の主人公に共感させることが重要である。共感させることが，自己を見つめさせる前提となるからである。そこで，児童を主人公に共感させるために，資料を効果的に活用する工夫が必要であると考えことから，補助資料とともに指導過程に位置付け，以下のように活用を図っていく。

導入で新垣勉が歌う「さとうきび畑」のCD曲を聞かせ，資料について興味や関心をもたせ，資料へのイメージをわかせる工夫をする。また，新垣勉の拡大写真を提示し，主人公への親近感をもたせる。

展開前段で中心資料として自作資料を提示し範読する。範読する際に，読みの速さ，声

の大きさ，抑揚などに留意し，資料の内容が理解しやすいようにする。

資料の内容を深く理解させるために，再度あらすじをプロジェクタで提示しながら説明する。

展開前段で点字タイプライターや点字の教科書等補助資料を活用し，中心資料の理解を深めるようにする。

展開後段において，価値の主體的自覚を図るための工夫として，ワークシートに生活に生かせることを書かせて，子ども達の多様な考え方を把握する。

終末において，新垣勉がコンサートをしているVTRを補助資料として活用し，一つの目標を達成した姿に共感させる。その方法としてプロジェクタで映像をスクリーンに映し，大画面と共に，臨場感を体感できる音声でリアリティをもたせることにより，より深い感動を与える効果があると考ええる。

#### 4 発問の工夫

道徳の時間における発問は，授業のねらいを達成するために重要な役割を担っている。教師の適切な発問により，子ども達は，自分に問いかけたり，全員で考えたりしながら，価値観を高め，一人一人がねらいとする道徳的価値を追求・把握し，内面的自覚を深めることができる。このようなことから，道徳の授業の成否は発問にかかっているとと言っても過言ではないと考える。

##### (1) 発問の役割と分類

道徳の時間の発問は子ども達の価値観を広げたり，深めたり，変えたりする役割がある。そこで，本時のねらいに対して児童の多様な価値観を引き出させる発問を考える必要がある。

道徳の時間における発問は，主として以下のように分けられる。

##### 基本的な発問

自分のこれまでの行為を見直させるための発問や，資料の中にある問題に気づかせ意識させるための発問。自分自身がもっている道徳的価値観に気づかせるための発問。授業の骨組みにあたる発問であり，1時間の学習における発問の数は3～4程度が適当である。

##### 中心的な発問

基本的な発問の中で，ねらいとする道徳的価値に真正面から相対し，児童の現在もっている価値観を揺さぶり，より深めるための発問。中心資料を扱う段階では，どうしても欠くことのできない発問であり，1つ又は2つが適当である。

##### 補助的な発問

基本的な発問や中心的な発問を補ったり基本的発問へ導いたり発展させたりする発問である。

##### (2) 発問の工夫

本研究では，中心資料を共感資料として活用することから，発問は共感的な発問を工夫する。共感的発問のよさは，主人公の気持ちに共感させ，自我関与させることによって本音を語らせ，自分の価値感に気づかせ，より高い価値を志向していこうすることに特徴があるからである。例えば基本発問で「生きる望みを失って，死にたいと思った新垣さんをどう思うか？」と発問した場合，二者択一になってしまい，児童の本音が引き出せない。

そこで、「生きる望みを失った新垣さんはどんなことを考えたか？」と新垣さんの気持ちに共感する発問を工夫することによって、主人公の気持ちを推察した反応が返ってくると予想される。

このように主人公の内面に入っていく発問を工夫するため、本実践では以下のような共感的な発問を主に用いる。

- ・「          は、どう思っているだろう。」
- ・「          の気持ちは、今、どんなだろう。」
- ・「          は、心の中で何を考えているだろう。」

## 授業実践

### 1 主題名 目標に向かってねばり強く

### 2 資料名 「全盲ぜんもうのテノール歌手 あらがき新垣 つとむ勉」(自作資料)

### 3 主題設定の理由

#### (1) 価値観

本主題は高学年指導内容 1 - (2)「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。」をねらいとするものである。本内容は、第 1 学年及び第 2 学年における「自分がやらなければならない勉強や仕事はしっかりと行う。」の内容を受け、さらには、第 3 学年及び第 4 学年における「自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。」に発展し、第 5 学年及び第 6 学年の 1 - (2)に発展していく内容である。

人間はだれでも目標や理想をもって生きている。しかしながら、目標を実現するために困難を克服し、自分に対しても厳しい心をもたなければならないことから、ややもすると途中で投げ出したり、厳しさに脱落する場合も多い。「不撓不屈」とは、辛いことや苦しいことにあっても、日ごろの活力を失ったり、意思がくじけたりすることなく、ねばり強くものごとをやり遂げることである。人間が困難や試練を克服する姿は尊いものである。そして、それらに立ち向かっていくことによって、人間としての強さが備わっていき、大きく成長していくと考える。目標をもって生きることの大切さ、その目標実現のために起こる不安や恐れを乗り越えて目標を達成し、成就感を味わうことが人生の幸福につながることを、本授業では感得させたい。

#### (2) 児童観

高学年の段階は、それぞれに高い理想を追い求める時だといわれる。学級のアンケートをみても学年・学期の初めなどに、自分なりの目標を立て、それに向かって努力した経験をもっているが、目標達成については、約半数の児童が挫折している。目標を達成にこぎつかなかった理由に、ゲームやテレビ視聴時間が多いのでできなかった。目標を忘れていた。友達と遊びすぎた。努力しようとしなかった等、目標を達成するために、粘り強く自分を高めていこうとする意識が、まだ確固たるものではないことが原因であると思われる。しかしながら、道徳意識調査からは、「苦しくても目標に向かって努力したい」という自己実現欲求をもって生活している子が圧倒的であった。このことから、がんばる気力が子どもたちの心に内在していることがわかった。

本授業では、新垣勉が多くの困難の中にあっても、ねばり強い意志をもって乗り越えた

姿に共感させ、自分のめざす価値ある目標に向かって、努力する心を培っていきたい。

### (3) 資料観

自作資料「全盲のテノール歌手 新垣勉」は生後まもなく、全ての視力を失ってしまった新垣勉が、両親との離別、混血と全盲のためにいじめられた少年時代、そして、二人つきりだった祖母との死別等、孤独と寂しさに自暴自棄になりかけた勉が、苦難を乗り越えテノール歌手となった話である。本資料では、新垣勉が寝る時間を惜しんで点字や英語講座を勉強したり、音大や大学院に進学する等の並々ならぬ努力を重ね、あらゆる分野で活躍し、人々に感動と希望と生きる勇気を与えていることに焦点をあてていきたい。

児童はテレビなどのマスメディア等で新垣勉のことを知っていると言想される。そのため、道徳の時間に彼を取り上げることによって、郷土の先輩でもある主人公を身近に感じたり、興味・関心を抱くことができる。また、資料の活用や発問の工夫を凝らした授業を行うことにより、彼の生き方に共感すると考える。主人公が与えられた条件のなかで、苦しさに打ち克ち、目標実現のために努力した、ねばり強い心に気づかせることによって、自分も主人公と同じように、より高い目標に向かって進んでいこうとする意欲を高めていきたい。また、本資料を共感的資料として活用し、児童の心に響く魅力的な授業の創造を目指したい。

## 4 本時の学習

### (1) ねらい

困難を乗り越え、目標をもって生きるすばらしさに共感し、ねばり強くやりとげようとする心情を高める。

### (2) 授業仮説

資料を共感資料として活用したり、共感的な発問を工夫することによって、価値に対して共感が深まり、道徳的实践力が高まるであろう。

### (3) 本時の展開

( = 補助的な発問      = 基本的な発問      中心的な発問      児 = 予想される児童の反応)

過程	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	教師の支援	資料等
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新垣勉の歌っているCDを聴く。</li> <li>・聴いた感想を発表する。</li> </ul>	<p>この曲を静かに聴いてみましょう。</p> <p>曲を聴いてどんな感想を持ちましたか。</p> <p>児 歌がうまい。</p> <p>歌っている人はこの人です。この人は新垣勉さんといいます。</p> <p>児 テレビで見たことがある。</p> <p>児 知らない。</p> <p>今日は新垣勉さんが頑張ったことについて勉強していきましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新垣勉が歌う「さとうきび畑」を聴かせ、新垣勉に興味を持たせる。</li> <li>・拡大写真を提示しながら説明し、親近感をもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CD</li> <li>・新垣勉の拡大写真</li> </ul>

展開前段 (27分)	価値の把握・追求	<p>・「全盲のテノール歌手 新垣勉」を読んで話し合う。</p> <p>いじめに合った時の主人公の気持ちを考える。</p> <p>一人ぼっちになった時の主人公の気持ちを考える。</p> <p>苦労していた時の主人公の気持ちを考える。</p> <p>目標を達成した主人公の気持ちを考える。</p>	<p>これから先生が読みます。</p> <p>資料のあらすじを振り返る。</p> <p>混血で目が見えないためにいじめにあった時、新垣さんはどんなことを考えたか。</p> <p>見悔しかった。</p> <p>見いやになった。</p> <p>生きる望みを失った新垣さんはどんなことを考えたか。</p> <p>見とても悲しい。</p> <p>見死んでしまいたい。</p> <p><b>寝る時間も惜しんで勉強している時、新垣さんはどんなことを考えたか。(中心的な発問)</b></p> <p>見やめてしまいたい。</p> <p>見辛いけど頑張る。</p> <p><b>目標を達成した新垣さんはどんなことを考えたか。(中心的な発問)</b></p> <p>見くじけないで努力してよかった。</p> <p>見あきらめないでよかった。</p>	<p>・範読する際は声の強弱,間の取り方に気をつける。</p> <p>・あらすじを把握させる</p> <p>・いじめられた時の気持ちに共感させる。</p> <p>・人間の弱さに共感させる。</p> <p>・人間の強さに共感させる。</p> <p>・児童の反応に揺さぶりや切り返しの発問をする。</p> <p><b>仮説の検証</b></p> <p>ねばり強く,努力することへの高い価値に共感できたか。</p>	<p>・中心資料</p> <p>・各映像</p> <p>・点字タイプライター</p> <p>・点字の教科書</p> <p>・コンサートの映像</p>
展開後段 (10分)	主体的自覚	<p>・新垣勉から学んだことを自分の夢や目標を実現させるために生かしたいことは何かを考える。</p>	<p>新垣さんから学んだことを,自分の夢や目標を実現させるために,生かしたいことは何かを考えよう。</p> <p>書いたことを発表しよう。</p>	<p>・配布後,書く視点を説明する。</p> <p><b>仮説の検証</b></p> <p>道徳的実践力が深まったか。</p>	<p>・ワークシート</p>
終末 (3分)	まとめ	<p>・新垣勉のコンサートのVTRを見る。</p>	<p>最後に一つの目標を達成してコンサートで歌う新垣勉さんのVTRを見ましょう。</p>	<p>・コンサートの様子のVTRを提示し,目標達成した姿に共感させる。</p>	<p>・VTR</p>

(4) 評価について

- ・ねばり強くやりとげた主人公の気持ちに
- ・自分の目標に向かってやりとげようとする気持ちがもてたか。

## 結果と考察

### 研究仮説の検証（授業記録から）

自作の資料を開発し、資料活用や発問を工夫することによって、道徳的価値の自覚が深まり、道徳的実践力が育つであろう。

#### 【結果】

##### (1) 使用した中心資料及び補助資料

- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| ・新垣勉のCD曲「さとうきび畑」      | ・ピアノレッスンをする新垣勉（映像） |
| ・新垣勉の拡大写真             | ・大学院合格を伝える記事（映像）   |
| ・中心資料「全盲のテノール歌手 新垣 勉」 | ・大学院修了を伝える記事（映像）   |
| ・新垣勉のふるさと読谷村の地図（映像）   | ・コンサートで歌う新垣勉（映像）   |
| ・牧師家族に囲まれている新垣勉（映像）   | ・点字タイプライター         |
| ・英語弁論大会優勝を報じる新聞記事（映像） | ・点字の教科書            |
| ・武蔵野音大トップ合格を伝える記事（映像） | ・ワークシート            |
| ・声楽科の講義風景（映像）         | ・コンサートのVTR         |

##### (2) 本時の展開における資料活用と発問の工夫

導入で新垣勉が歌う「さとうきび畑」聴かせるとともに、新垣勉の拡大写真（写真1）を提示して、興味・関心をもたせた。

T1：新垣勉さんは沖縄県読谷村の出身です。

新垣勉が沖縄県読谷村の出身であるということを説明し、親近感をもたせるようにした。

展開前段で中心資料「全盲のテノール歌手 新垣 勉」を範読した後、映像資料を掲示しながら、あらすじを振り返った。

展開前段で中心的な発問をする。

T2：寝る間を惜しんで勉強している時、新垣さんはどんなことを考えたろう？

C1：自分みたいな人を助けたい。 C2：不安である。

C3：みかえしてやりたい。 C4：大丈夫かな。

点字の教科書を提示し、T3の発問する。

T3：この本を見てピアノが弾ける？

C5：弾けそうにない。

T4：なぜ、新垣さんはできたのか？

C6：乗り越えたいという気持ちがあったから。

C7：目指すものがあったから。

ふるさとコンサートで歌う新垣勉の映像（写真2）を提示しながら、中心的発問をする。

T5：目標を達成した時、どんなことを考えたと思いますか？

C8：今まで頑張ってきてよかった。

C9：人のために役立った。

C10：また目標を見つけてがんばる。



写真1 拡大写真の提示

全盲のテノール歌手・新垣さん



写真2 コンサートの映像提示

C11：自分を誇らしく思う。

展開後段の価値の主體的自覚を図る段階で、ワークシートに書かせた後、発表させる。

T6：新垣さんから学んだことを、自分の夢や目標を実現させるために、生かしたいことは何かを考え、ワークシートに書いてみよう。

T7：　　さん発表して下さい。

C12：「私は将来、パティシエになりたいと思っています。そのためには、新垣さんのように高いハードルを乗り越えていかなければと思います。」

終末でコンサートの様子のVTRを提示する。

T8：みんなが自分の夢や目標を達成できることを願って、新垣勉さんの歌をプレゼントします。

### 【考察】

導入段階では、新垣勉へ興味・関心をもたせるための工夫として、新垣勉が歌う「さとうきび畑」と拡大写真を提示したところ、曲は大半の児童が知っていて、興味を示したり新垣勉の写真を見て目が見えないことに気づいた。また、沖縄県出身だと説明し、親近感をもたせた。そのことから、導入段階での資料提示は効果的だったと考える。展開前段では自作資料「全盲のテノール歌手 新垣 勉」を中心資料として活用した。児童に聞く視点を与えた後、自作資料のもつよさを生かして教師が範読した。児童は郷土の先輩である新垣勉に親近感をもち集中して聞いていた。範読の時間に約7分を要したが、高学年では適量だったと考える。しかし、読むスピード、声の大きさ抑揚、間の取り方等、研究する必要があると考える。

また、あらすじを把握させるために、範読後プロジェクタを用いて、映像をスクリーンに提示した。大画面で映像を提示することで、児童は集中して視聴していた。しかし、資料の説明に時間を多く要したため、本授業が超過する原因になった。時間内に終えるためには、資料の内容を簡潔にまとめておく工夫が必要であった。

展開前段の中心発問では「寝る間を惜しんで勉強している時、新垣さんはどんなことを考えたか？」の問いに「自分みたいな人を助けたい」「不安である」「大丈夫かな」「みかえしてやりたい」等の反応があった。ここでは、人間の強さを考えさせることがねらいだったので、点字の教科書を提示し、「この本をみてピアノが弾ける？」と質問した。その質問に対して数名の児童が「弾けそうにない」と反応した。それを受けて、「では、なぜ新垣さんはできたのか？」と質問した。子ども達から「乗り越えたいという気持ちがあったから」「目指すものがあったから」という反応が返ってきた。そのことから、ねらいに近づくための資料提示と発問は効果的であったと考える。

展開前段で、ふるさと読谷村でコンサートをする新垣勉の映像を提示後、中心発問として「目標を達成した新垣さんはどんなことを考えたか？」を発問した。子ども達から「今まで頑張ってきてよかった」「人のために役立った」「また目標をみつけて頑張る」「自分を誇らしく思う」等の反応があったことから、ねらいとする価値をとらえていたと考える。そのことから、この段階での資料提示と発問は有効だったと考える。

展開後段で価値の主體的自覚を図るため、「新垣さんから学んだことを、自分の夢や目標を実現させるために、生かしたいことは何ですか」と発問し、ワークシートに書かせた。図1、図2のように子ども達が自分たちのこととオーバーラップさせて考えている

